

構造データの連動性能

構造計算、BIM、ウォールスタットまで

ネットイーグル

ネットイーグル（福山市、祖父江久好社長）の2×4CAD

「XF24」は、直結連動する構造計算（許容応力度計算）システム「NSC24」の活用により、構造計算結果とそこのない構造図の作成、プレカット加工、パネル製作が特徴だ。2025年4月の建築基準法改正以降はアパートの多くで構造計算が必要になることから、負担軽減を図りた

でなく、円弧／斜め座標系にも対応し、複雑な意匠の物件も入力できる。

建築基準法改正後は、2階建て以上または200平方メートル以上の物件は建築確認時の構造審査が省略できず、確認申請の段階で構造計算結果と構造図の整合性を確認する必要が生じる。住宅会社の中には法改正後、構造計算が必要な物件が2・5倍に増えるケースもあり、作業負担も膨大になる。XF24とデータが完全連動するNSC24を使えば、再入力、修正の必要がなく、法改正後の作業負担増を大幅に軽減できる。

XF24で作成した構造データは、インターフェイスを介してBIMデータやウォールスタット解析データとしても利用できる。

BIMを使えば、構造だけでなく、意匠から構造、加工、施工、維持管理まで同じデータで統一できることから、今後、ゼネコンや住宅会社からBIMデータの提供を求められるケースが増えると考えられる。一方、耐震シミュレーションソフトのウォールスタットを使えば、住宅、非住宅とも実際の地震波で揺らして構造検討できる。